

# データセイバー 設置マニュアル

Vol.2.0

株式会社 IMS

## 重要なお知らせ

1. 本製品を安全に正しくご使用していただくため、下記には重要な内容が記載されています。よくお読みになり、記載事項を必ずお守りください。本製品をご利用なさる際には、本利用契約を納得したとみなします。
2. 本商品付属の電源アダプター以外のものは、製品にダメージを与える可能性があります。他社の電源アダプター利用による直接或いは間接的な障害に関して、一切責任を負いません。
3. 弊社が提供する保証範囲はハードウェアのみです。つまり、本製品の使用により発生したデータの紛失、またはその紛失によるすべての損失、データ修復に発生した費用等に関しては、責任を負うことはできません。お客様のご要望により、保存媒体を保管または処分する場合には、別途料金が発生しますので、ご了承ください。

お使いの前によくお読みになり、紛失しないよう大切に保管してください。

## 安全に関するご注意

-  **危険** この表示の項目は、「死亡または重傷を負う危険発生の切迫度が高い」内容です。
-  **警告** この表示の項目は、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
-  **注意** この表示の項目は、「人が傷害を負う可能性、または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

### 危険

アルコールやシンナーなどの引火性溶剤の近くでの使用や、本製品付近での可燃性スプレーの使用は避けてください。爆発・発火により、大けがや火災の原因になります。

濡れた手で本製品の操作やケーブル類※の抜き差しはしないでください。または水の入ったコップ等を近くに置かないでください。内部に水が入った場合は、すみやかにケーブル類※を抜いて使用を中止してください。使用を続けると、火災や感電の原因となります。

ご自身による修理、分解、改造をしないでください。故障の原因になる上に、感電の危険があります。また、本製品には小さな精密部品が内蔵されており、特に幼児・子供のまわりでは誤飲の危険があります。絶対にしないでください。点検、調整、修理はお買い上げいただいた販売店にご連絡ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意を払ってください。ケガや事故の原因となります。

### 警告

ケーブル類※に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ひっぱったり、傷つけたり、加熱、破損および加工しないでください。またケーブル類※を抜くときは、プラグ部分をもって抜いてください。ケーブルが傷むと火災や感電の原因となります。

万一、使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出る等の異常を感じたら、やけどに注意しながらすみやかにケーブルを抜き、使用を中止してお買い上げいただいた販売店にご連絡ください。

 **注意**

ケーブル類※は接続端子の奥までしっかりと差し込んでください。ケーブルが傷ついていたたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

お手入れの際や、長時間使用しないときなどは、ケーブル類※を抜いてください。火災や感電の原因となります。

※ケーブル類とはUSBケーブル、Ethernetケーブル、電源ケーブルを意味します。

正しくお使いいただくために

- ◎湿気、ホコリの多い場所
  - ◎直射日光の当たる場所
  - ◎火気の近くや高温になる場所
  - ◎通風口の近くや、油煙が当たる場所
  - ◎ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所
- 上記の場所等での使用は、故障、火災、ケガの原因になります。

 **注意** データの管理に関する注意

本製品およびパソコンの不具合により、データ等が破損、または消去された場合、それらのデータ等の内容の保証に対し、当社では一切の責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

データセイバーではCloud Disk上のデータを内蔵ハードディスクへコピーします。

データセイバーの管理者パスワードの管理は厳重に行ってください。

 **注意** ソフトウェアご利用にあたっての注意

データセイバーは、ご利用開始とともに、「データセイバーソフトウェア使用許諾契約書」にご同意いただいたものとみなされます。ソフトウェア使用許諾契約書の全文は下記をご参照ください。

<http://doc.cloud-disk.jp/>

セキュリティの観点から緊急性が高いと判断される場合、事前の承諾なく、ファームウェアを自動更新する場合がございます。あらかじめご了承ください。

当社では常に製品の改善を行っており、予告無く仕様が変更される場合があります。お買い上げ時期によっては、同一製品の中にも差が生じる場合がありますがご了承ください。

---

## その他 ご注意

◎本製品のご使用により生じたその他の機器やソフトウェアの損害に対し、当社では一切の責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

◎本製品でのご使用、または使用不能から生じる付随的な損害（事業の利益損失、中断など含む）に対し、当社では一切の責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

◎本書の誤りなどについての保証はご容赦ください。

◎本書内容を無断で複写、転載しないでください。本書内容については、将来予告なしに変更される場合があります。

## 内容

データセイバー .....	エラー! ブックマークが定義されていません。
設置マニュアル .....	1
Vol.1.4.....	1
株式会社 IMS.....	1
1. 商品説明 .....	7
2. はじめに .....	10
3. バックアップ仕様.....	11
4. Cloud Disk Local Backup Windows Tool のインストール .....	12
5. データセイバーの初回設定 .....	12
5.1. 起動 .....	12
5.2. Cloud Disk Local Backup Windows Tool を起動.....	12
5.3. Web 設定ツールログイン .....	13
5.4. Cloud Disk アカウント登録 .....	14
5.5. ダウンロード (バックアップ) 実行タイミング設定 .....	15
5.6. 監視設定.....	17
5.6.1. アラートメール送付先登録 .....	17
5.6.2. 監視レベル設定.....	17
6. Windows パソコンのデータバックアップ設定 .....	21
7. バックアップしたデータを参照する .....	24
8. バックアップファイルからデータを復元する.....	24
8.1. バックアップファイルの保存先 .....	24
8.2. バックアップファイルの復元方法.....	25
9.ファームウェアの更新が必要な場合について .....	26

## 商品説明

### パッケージ内容

本体	1 台
AC アダプター	1 本
USB ケーブル	1 本
LAN ケーブル	1m
スタンド	1 本
クイックガイド	1 冊
保証書	1 部

※注：本書は事前の通知なく、内容が更新される場合があります。

### 製品仕様

対応ハードディスク	3.5インチ SATA-2 ハードディスクドライブ
対応フォーマット	NTFS、XFS、EXT3
対応プロトコル	HTTP、CIFS/SMB、NFS、SSH
対応インタフェース	USB2.0 Host Port (USB ハードディスクとしての利用) 10M/100M/1G bit Ethernet Port
電源	電源ケーブル：AC100～240V、50/60Hz 本体：DC12V、2A
使用環境	動作時対応温度：5～40℃ 非動作時対応温度：0～60℃ 湿度：5%～90%
重量	475g
外形寸法	115×200×37mm (突起部除く)

◎すべてのデータは、当社測定条件によります。都合により記載内容を予告なしに変更することがあります。

◎データセイバー を USB ケーブルで接続している際、内蔵ハードディスクのフォーマット形式が XFS、EXT3 の場合は標準状態では Windows OS 搭載の PC からデータを読み出すことはできません。

## 製品外観

### インタフェース

インタフェース	詳細
USB (TypeA)	パソコンと本体を接続し、データセイバーを USB ハードディスクのように使用できます。ただし、WindowsOS は XFS ファイルシステムが識別できないため、パソコンに繋げても認識できない場合があります。
USB (TypeB)	USB メモリや USB ハードディスクなどをつなげて使うことができます。LAN 経由でデータセイバーにアクセスした際には、追加パーティションとして表示されます。 ※全ての外付けストレージを認識できる保証はありません。個別に認識しない場合もありますが、故障ではありません。
LAN ポート	ネットワークへの接続に使用します。USB (TypeA) ポートを用いてパソコンと接続している場合、LAN 経由で CDLB のデータを参照することはできません。
電源	AC アダプターと接続します。
電源ボタン	2 秒ほど押すと電源が入ります。電源が入ると、正面の LED ランプが点滅します。起動プロセスが終了すると LED が点灯状態になります。 電源を切るときには軽く 1 秒ほど押します。正面の LED ランプが点滅し、正常終了すると点灯が消えます。
リセットボタン	データセイバーを出荷時の状態に戻す際に使用します。 1. 正常動作時に、リセットボタンを 5 秒間押し続けると、正面の LED ランプが数秒間点灯したのち、消えます。これは初期化完了の合図なので、リセットボタンを離します。電源ボタンを押して本体の動作を停止し、再度電源ボタンを押すと正

常に利用できます。

- リセットボタンを押し続けた状態で、電源ボタンを押すと、正面の LED が数秒間点灯したのち、消えます。これは初期化完了の合図なので、リセットボタンを離します。電源ボタンを押して本体の動作を停止し、再度電源ボタンを押すと正常に利用できます。

## ネットワーク環境

項目	必要環境
データセイバーおよび Cloud Disk サービス	http、https が使用できること 80 番ポート、443 番ポートが利用できること データセイバーが宣言するブロードキャストアドレスとして「239.143.255.250」が使用可能なこと 【データセイバーにおいて NTP サーバとの時刻同期を行う場合】 TCP、UDP が使用できること 123 番ポートが利用できること
データセイバー	UDP が使用できること
Windows Tool を利用する場合	1900 番ポートが利用できること

## データセイバーをご利用にあたって必要なソフトウェア

名称	機能	対応 OS
データセイバー Windows Tool	同一のネットワークセグメントに存在するデータセイバーを検出するソフトウェア	Windows XP/ Vista/ 7
CDLB バックアップ 復元ツール	データセイバーにバックアップした Cloud Disk 上のバックアップデータを、Windows PC に復元するソフトウェア	Windows XP/ Vista/ 7

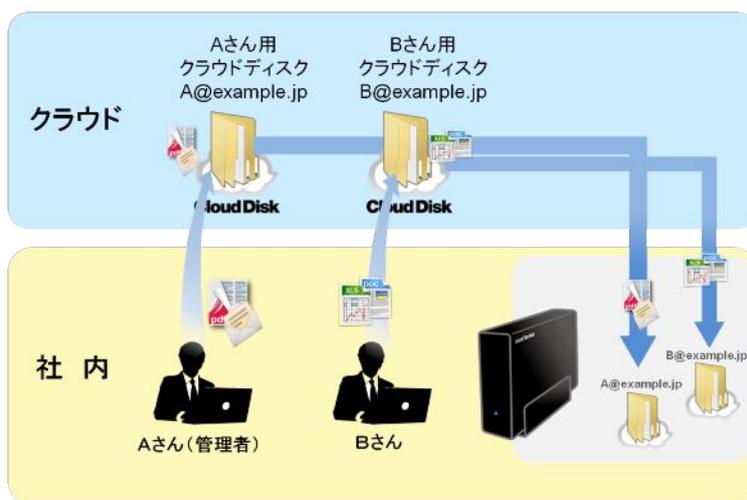
名称	機能	対応ブラウザ（※）
web ブラウザ	データセイバーの各種設定を行う	IE 9 / Google Chrome / Firefox

※これらのブラウザであってもバージョンによっては一部表示が乱れる場合があります。

はじめに

データセイバーはオンラインストレージサービスである「Cloud Disk」に保存された PC やスマートフォンのデータをまるごと保存する機能を提供するローカルストレージです。

これにより、災害やネットワーク障害等で、オンラインストレージサービスが利用できなくなった場合でも、重要なデータだけは手元のストレージに保管されている状態となります。



## 周辺機器との接続図

### データセイバー

ルータ及びハブのポート数の空きがない場合、別途ハブを増設してください。

## 1. バックアップ仕様

Cloud Disk 上のデータをデータセイバーにバックアップする場合の仕様は以下の通りです。

項目	内容
登録可能な Cloud Disk アカウント数	最大 32 (推奨 5)
自動バックアップ間隔	前回のバックアップ完了 (※1) から 6~12 時間の範囲で 1 回 ・ 前回のバックアップ完了 (※1) から 12~24 時間の範囲で 1 回
バックアップ対象ファイル	以下の A.B.のファイルのうち、以下の条件を満たすファイルがバックアップ対象データとしてダウンロードされます。 <b>【対象】</b> 一般ファイル: Cloud Disk 各種クライアントのファイル操作画面から操作可能なファイルすべて バックアップファイル: Windows/Mac (※2) Client のバックアップツールを使用して作成したファイル。zip 形式で圧縮されており、特殊なファイル名が自動的に付けられている <b>【バックアップ条件】</b> ●新規ファイル: データセイバー内の同一パスのフォルダ内に存在しないファイル ●更新ファイル: データセイバー内の同一パスのフォルダに同じ名称のファイルはあるが、タイムスタンプが異なるファイル (※3) <u>以下のデータはデータセイバーでのバックアップ対象には含まれません</u> ①ファイル変更履歴データ ②「ゴミ箱」内データ ③操作履歴データ
Cloud Disk 上で削除されたファイル	一般ファイル (Cloud Disk 各種クライアントのファイル操作画面から操作可能なファイル) の場合、 <u>データセイバーに一度ダウンロードされたら、Cloud Disk 上で削除されても、データセイバー上からは自動的に削除されません</u>
バックアップファイルの保存	同一パスを対象としたバックアップファイルは、タイムスタンプが新しい順に最大 3 世代分が常に保存されます。4 世代以前のは自動削除されます (※4)
バックアップ可能容量	データセイバー内で Cloud Disk 用に割り当てられた HDD パーティション (Volume1) の容量が、全 Cloud Disk アカウントのバックアップデータ上限となります

※1 Cloud Disk のメンテナンス及び障害によってバックアップ処理がスキップされた場合もバックアップ完了として扱われます。次回のバックアップ処理は、設定されている自動バックアップ処理に依存いたします。

※2 Mac Client へのバックアップツール実装は今後、予定されております。

※3 Cloud Disk 上のファイルのタイムスタンプのほうが古い場合でも、データセイバー上のファイルを上書きする形でバックアップします。

※4 データセイバー内でのバックアップファイルの保存ルールは、Windows Client のバックアップツールで指定する「保持するバージョン数」とは一致しません。

## 2. Cloud Disk Local Backup Windows Tool のインストール

ネットワーク内に設置されているデータセイバーを検出するためのソフトウェアとして、「Cloud Disk Local Backup Windows Tool」を利用します。

あらかじめインストーラを入手してください。

ダウンロード先のアドレスですが、以下のとおりです。

<http://datasaver.jp>

管理者が利用する Windows パソコンに「Cloud Disk Local Backup Windows Tool」をインストールします。

インストールにつきましては、「データセイバー操作マニュアル」をご確認ください。

## 3. データセイバーの初回設定

### 3.1. 起動

データセイバー背面の電源ボタンを 2 秒ほど押します。正面の LED ランプが青く点滅します。LED ランプの点滅が終了し、青く点灯した状態になったら起動完了です。

### 3.2. Cloud Disk Local Backup Windows Tool を起動

インストールした Cloud Disk Local Backup Windows Tool（以下、Windows Tool）を起動します。Windows Tool はご利用のデータセイバーをネットワーク上から検出し、リスト表示します。リストに使用中のデータセイバーが現れない場合は、少し時間をおいて、「更新」ボタンを押してください。



Windows セキュリティの重要な警告が出た場合は「アクセスを許可する」をクリックしてください。



※設置先ネットワークが各端末にプライベート IP を設定されている場合 (ルータの設定で DHCP の設定が OFF 等)、データセイバーへ IP アドレスが自動割当されません。その為、設定される PC のインターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティの IP 設定を「192.168.1.1」サブネットマスクを「255.255.255.0」デフォルトゲートウェイを「192.168.1.1」優先 DNS サーバを「ルータの IP アドレス」で設定していただき、ブラウザのアドレスに「192.168.1.222」を入力していただくと web 設定ツールログイン画面が表示されます。

### 3.3. Web 設定ツールログイン

検出されたデータセイバーを選び、「設定」ボタンを押します。ブラウザが起動し、ログイン画面が表示されます。検出されたデータセイバーの右側にある IP アドレスをブラウザに入力してもログイン画面を表示することが可能です。



ユーザー、パスワードを入力し、ログインボタンを押します。アカウント名は「admin」、パスワードの初期値は「password」です。

DHCP による IP アドレスが自動割り当てではないお客様ですが、「基本設定」タブ→「ネットワーク設定」にて、「タイプ」を「手動」にし、ネットワークの変更を行なってください。変更が終了しましたら、「設定」ボタンを押してください。



### 3.4. Cloud Disk アカウント登録

データセイバーの各種設定は Web 設定ツールの「サービス」タブ→「Cloud Disk」で行います。

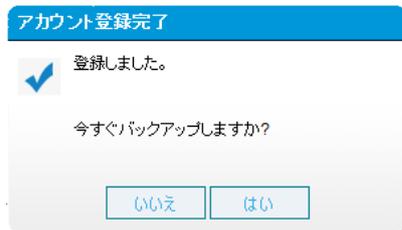
データセイバーにデータを保存する Cloud Disk アカウントを登録します。



「アカウント登録」からバックアップする Cloud Disk のアカウント名とパスワードをそれぞれ入力します。入力後、「登録」をクリックします。



正しく入力すると登録確認画面が表示されますので、「登録」をクリックします。



登録が完了すると、「今すぐバックアップしますか?」と表示されます。「はい」をクリックします。

登録が完了したアカウントは「登録済みアカウント」欄に表示されます。

### ご注意：【登録アカウント数とバックアップに要する時間について】

データセイバーで登録できるアカウント数は32アカウントまでとさせていただいております。ただし、登録するアカウント数が増えると、Cloud Disk からのバックアップ処理が重なる傾向が高まり、必要な通信帯域が増えるほか、データセイバー本体の処理性能も複数のプロセスで共有することになるため、バックアップ完了までに時間がかかるようになります。

また、Cloud Disk 上に数 GB のデータを保存しているアカウントを登録する場合には、初回のバックアップ完了までに長時間を要する可能性があります。

### 3.5. ダウンロード（バックアップ）実行タイミング設定

インターネット上にある Cloud Disk のデータを、データセイバーにダウンロードするタイミングは以下の3つからお選びいただけます。

## 12 時間ごと、24 時間ごと、今すぐバックアップ



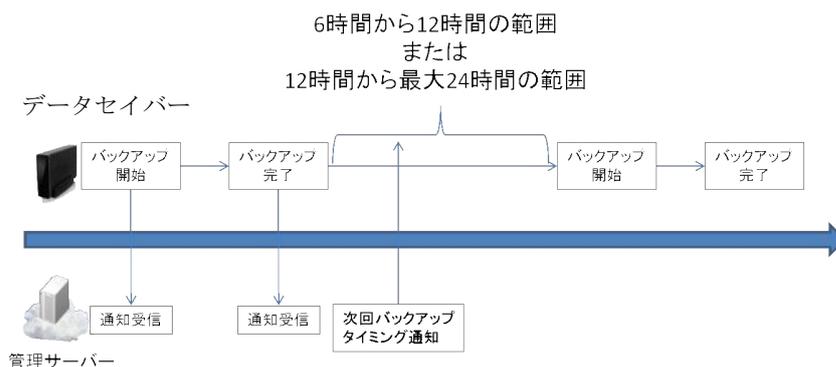
ダウンロードする  
タイミングは左の画面で設  
定します。

### ご注意：【ダウンロード（バックアップ）実行タイミングについて】

ダウンロードの次回実行時刻は、Cloud Disk サーバへのアクセス負荷分散のため、Cloud Disk からのデータダウンロード完了時にデータセイバー監視サービスを提供する管理サーバからデータセイバーに対して通知されます。

データセイバー設定画面で設定するダウンロードタイミングは、前回のダウンロードが完了した時刻から 12 時間以内、または 6 時間～12 時間の範囲、または 12 時間～24 時間の範囲の時刻にダウンロードが開始されるという意味での設定になります。

また、ダウンロード実行予定時刻に Cloud Disk サーバのメンテナンスまたは障害で、アクセスができなかった場合は、予定されていたバックアップはスキップされます。次のバックアップはスキップされた時刻から 12 時間後までの範囲、もしくは 12 時間～24 時間の範囲で管理サーバから指定された時刻に実行されます。



### ご注意：【バックアップ処理の単位について】

バックアップ処理は、データセイバーに登録されている Cloud Disk アカウントごとに実行されます。各アカウントに保存されているバックアップ対象データの容量によって、それぞれのアカウントデータのバックアップ完了までに要する時間は異なります。

### 3.6. 監視設定

データセイバーでは予定されていたダウンロードが実行されなかった際に、アラートメールを受け取ることができます。

#### 3.6.1. アラートメール送付先登録



アラートメールを受け取るメールアドレスは最大5つ登録が可能です。

※追加・削除いずれの場合も、画面下の「保存」ボタンを押さないと変更が反映されません。

#### 3.6.2. 監視レベル設定

どのような事象についてメールを送信するかは監視レベル欄で設定します。



※監視レベルを変更した場合も「保存」ボタンを押さないと変更が反映されません。

監視レベルは以下 3 つです。

設定項目	内容
①すべての通知を受け取る	設定項目②のほか、予定された定期バックアップが終了したことをメールで知らせます
②定期バックアップ処理開始・終了の異常検知のみ受信	以下の事象が発生したことをメールで知らせます <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定された定期バックアップ時刻になってもデータセ이버から管理サーバへ処理開始通知が行われなかった</li> <li>・バックアップ処理開始通知が行われてから 24 時間たっても管理サーバへバックアップ処理終了通知が届かなかった</li> <li>・何らかの理由でバックアップ処理がエラーになった</li> </ul>
③メール通知を行わない	どのような場合でもメールでの通知は行われません

監視サーバの検知方法は、以下の 4 項番に分けられます。

From は cdlb@cloud-disk.jp（送信専用）となります。

#### ■ 監視サーバ検知コード

テンプレートNo	クラウドマネージサーバが検知した事象	CDLB上の設定		
		すべての通知を受け取る	定期バックアップ処理開始・終了の異常検知のみ	メール通知を行わない
1	CDLB側で何らかのエラーがあって処理が開始できなかった	○	○	×
2	バックアップ開始予定時刻に処理開始通知が送られてこない	○	○	×
3	処理開始から24時間たっても処理完了通知が来ない	○	○	×
0	バックアップが正常に完了した	○	×	×

アラートメールの例文は、以下の通りとなります。

## メール文面

Subject: [CDLB:定期バックアップ] 完了しました

検知日時 :2013/03/02 18:19:31  
Node Id :ABCDEF000001  
Device Id : 00:00:11:22:33  
Job Id : 8  
サービス名 : Cloud Disk  
アカウント名 : [test@example.jp](mailto:test@example.jp)

予定の時間に「定期バックアップ」を完了しました。  
完了時刻:2012-03-01 12:40:00

詳細: 次回の「定期バックアップ」予定時刻:  
2013-03-01 12:33:23

(code:0-0)  
-----  
本メールは送信専用のため、返信は受け付けられません。  
詳細はご利用のCloud Diskサービス提供元、もしくは、お買い上げの販売店まで お問い合わせ  
わけしてください



### ■subject

メールの[件名]です。

### ■検知日時

異常を検知した年月日及び時間です。

### ■Node Id

データセイバーに割り振られている固有 ID です。

### ■Device Id

データセイバーの MAC アドレスです。

### ■Job Id

バックアップ処理の際、割り振られる番号です。

### ■サービス名

サービスの名称です。

### ■メールアドレス

Cloud Disk メールアカウントです。

### ■詳細

異常を検知した際の状態が表示されます。

### ■code

エラー時の code の No(ナンバー)が表示されます。「code:X-X」と表示され(Xに入る値については、その時のエラー内容により変わります。)P20 ページの「監視サーバ検知コード」と以下の表の「エラーNo」の組み合わせとなります。

(code:監視サーバ検知コード-エラーNo)

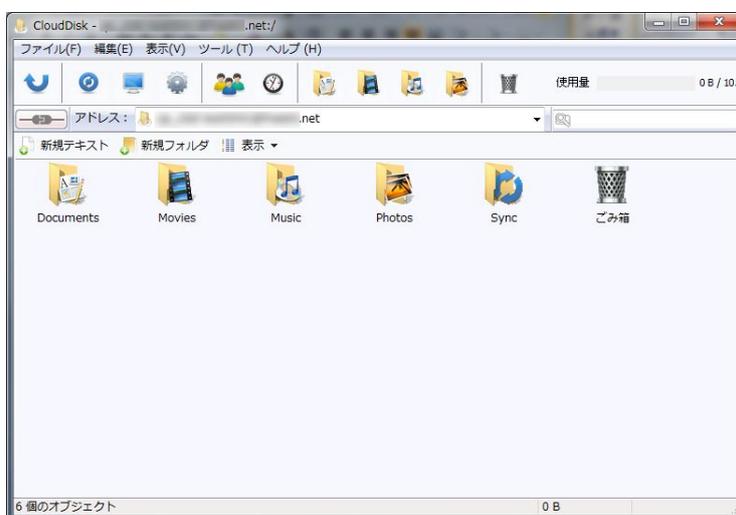
(例:code:0-0 → code:「バックアップが正常に完了した」-「成功」)

エラーNo	エラー内容	エラー内容(日本語)	解決策
else	Unkown Error	アプリケーションエラーです。	ファームウェア更新
18	Transferred a partial file	ディスクエラーです。	
23	Failed writing received data to disk/application	ディスクエラーです。	
26	Failed to open/read local data from file/application	ディスクエラーです。	
63	Maximum file size exceeded	ディスクエラーです。 上限値を超えるサイズのファイルがあります。	CDLB内蔵HDD交換
65	Send failed since rewinding of the data stream failed	ディスクエラーです。	
70	Disk full or allocation exceeded	ディスクエラーです。	
93	Internal Disk is full	ディスクエラーです。 空き容量が十分か確認してください。	CDLB内蔵HDD交換
2	Failed initialization	メモリーエラーです。	
27	Out of memory	メモリーエラーです。	
5	Couldn't resolve proxy name	ネットワークエラーです。 プロキシサーバーの設定を確認してください。	接続状況確認設定確認
6	Couldn't resolve host name	ネットワークエラーです。 DNSの設定を確認してください。	DNS設定確認
7	Couldn't connect to server	ネットワークエラーです。	
9	Access denied to remote resource	ネットワークエラーです。	
28	Timeout was reached	ネットワークエラーです。 サーバーへの接続がタイムアウトしました。	
81	Socket not ready for send/rcv	ネットワークエラーです。	接続状況確認設定確認
0	No error	成功	
22	HTTP response code said error	サーバーエラーです。	
35	SSL connect error	サーバーエラーです。	
51	SSL peer certificate or SSH remote key was not OK	サーバーエラーです。	
52	Server returned nothing (no headers)	サーバーエラーです。	
55	Failed sending data to the peer	サーバーエラーです。	
60	Peer certificate cannot be authenticated with given CA	サーバーエラーです。	
61	Unrecognized or bad HTTP Content or Transfer-Encoding	サーバーエラーです。	
64	Requested SSL level failed	サーバーエラーです。	
78	Remote file not found	サーバーエラーです。	
79	Error in the SSH layer	サーバーエラーです。	
80	Failed to shut down the SSL connection	サーバーエラーです。	
90	Disk Server Authentication Error	Cloud Diskサーバーにログインできませんでした。	
91	Disk Server DOWN	Cloud Diskサーバーに障害が発生していました。	
92	Disk Server MAINTENANCE	Cloud Diskサーバーがメンテナンス中でした。	

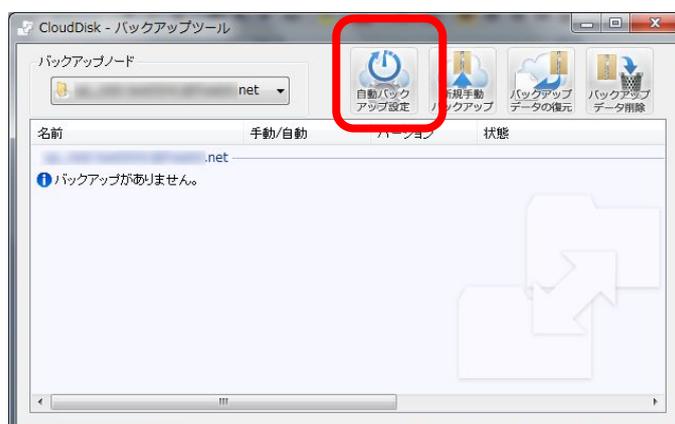
## 6. Windows パソコンのデータバックアップ設定

Cloud Disk Client (Windows 版、以下 Windows Client) では、パソコン内の特定のデータ (フォルダやファイル) を指定して、定期的にデータを Cloud Disk へ自動バックアップできます。設定手順は以下の通りです。

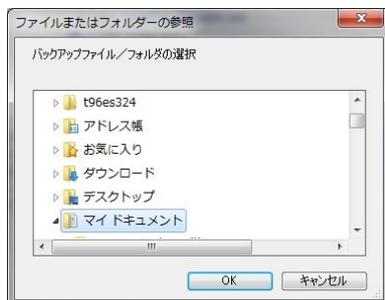
- A. Windows Client を起動し、Cloud Disk のアカウント情報を設定します。
- B. バックアップ設定を行うアカウントのアイコンをダブルクリックして、ファイルやフォルダ画面に移動します。



- C. 「ツール」 → 「バックアップツール」でバックアップツールを開き、「自動バックアップ設定」ボタンをクリックします。

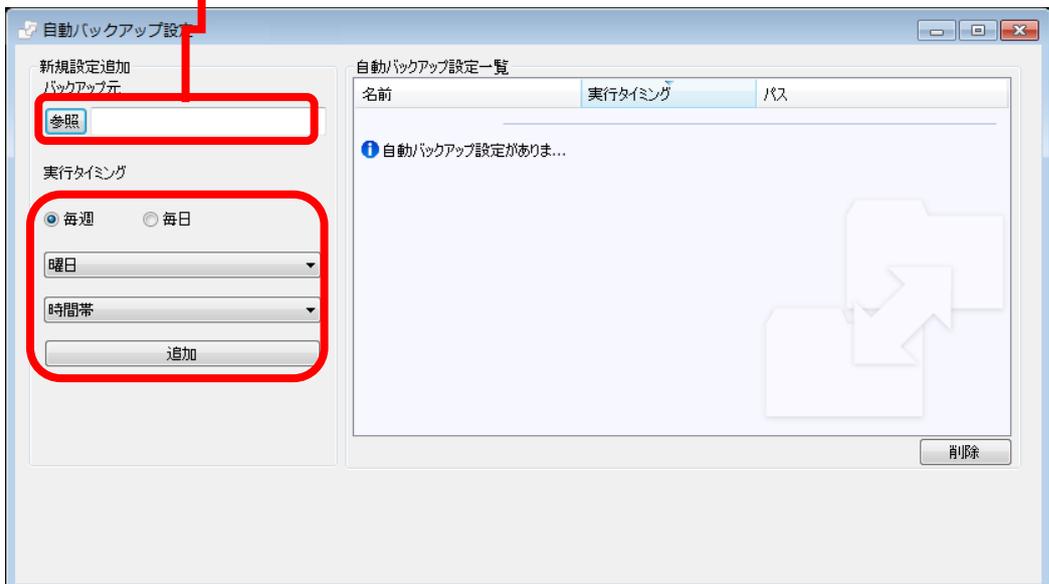


D. バックアップの設定をします。



バックアップ対象とするフォルダやファイルを選びます。(注意：一部のシステムフォルダはバックアップ対象にすることはできません)

バックアップ頻度を設定します。時間帯で指定した枠の中でバックアップを開始します。



注意：1つのバックアップファイルサイズの上限は2GBです。バックアップ実行時に、圧縮後容量が2GBを超えると警告が出て、バックアップが停止します。

注意：本バックアップは毎回、対象フォルダの全データをzip圧縮してCloud Diskへアップロードします。バックアップデータもCloud Diskの容量を消費しますのでご注意ください。

注意：時間帯においては、指定した時間帯の間で実施します。

【例】7：00～8：00で設定された場合は、7：00～8：00の1時間の中でバックアップを開始します

※注意：バックアップ対象にできないフォルダ

- 1・Rootそのもの（例：c:¥¥, e:¥¥）
- 2・¥¥Windows以下のフォルダやファイル群

※そのフォルダがドライブの直下にある場合、属するドライブの違いにかかわらず、

同様に処理します。

例：C:\Windows、D:\Windows の両方がある場合、同じく処理します。

3・¥Program Files, ¥Program Files(x86) 以下のフォルダやファイル群

※上記の「2」と同じく処理します。

4・Windows OS で system folder と判断されるもの

5. ネットワークドライブのファイルやフォルダ

ただし、以下のフォルダはバックアップ対象として選択可能です。

例外：

「パブリックのドキュメント」

「パブリックのミュージック」

「パブリックのピクチャ」

「パブリックのビデオ」

「マイドキュメント」

「マイミュージック」

「マイビデオ」

「マイピクチャ」

「お気に入り」

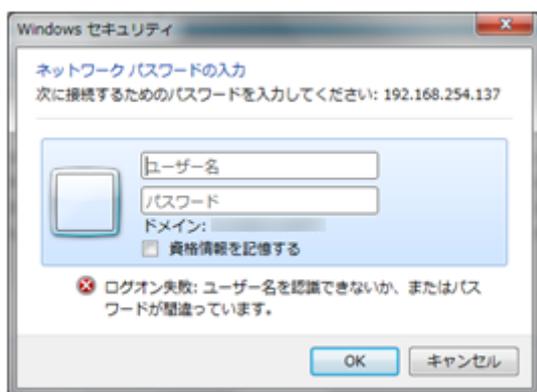
「アドレス帳」

※注意：自動バックアップ時にパソコンがオフラインだった場合

自動バックアップが動作する予定の時間帯は、以下の3つの条件が満たされているようにしてください。①パソコンの電源が入っている、②Cloud Disk Windows Client が起動している、③ネットワークにつながっている。左記条件が満たされていない場合、自動バックアップは動作しません。

## 7.バックアップしたデータを参照する

Cloud Disk からバックアップしたデータはアカウントごとに生成されるフォルダ内に保存されます。

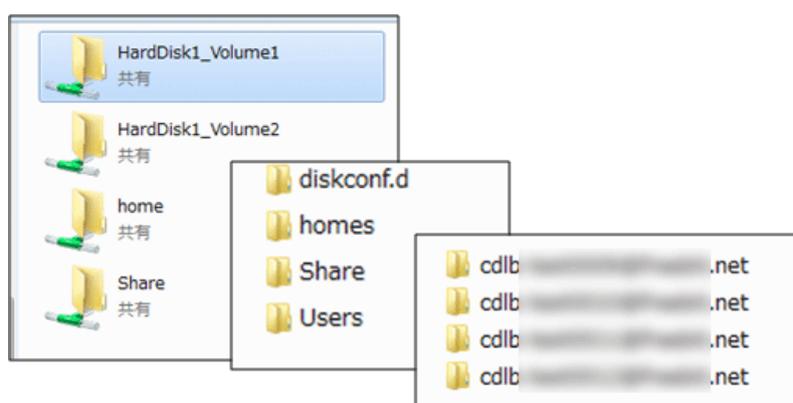


1.Windows のエクスプローラにデータセイバーの IP アドレスを入力する

例: ¥¥192.168.254.137¥

左のような画面が表示された場合は、ユーザー名は「admin」、パスワードはデータセイバー設定画面へのアクセスに用いる「パスワード」

を記入します。出荷時の設定は「password」です。



アカウントを作成すると、HardDisk1\_Volume1¥Users¥の中にアカウント名ごとのフォルダが自動的に生成されます。Cloud Disk からバックアップしたファイルは各アカウント名フォルダの中に保存されます。

必要に応じてファイルをコピーすることによって、データの取り出しが可能になります。

## 8.バックアップファイルからデータを復元する

### 8.1.バックアップファイルの保存先

Windows Client の「バックアップツール」機能によって生成されたバックアップファイルは、データセイバー内では、各アカウント名フォルダの中に「backup」フォルダを生成して保存します。

backup フォルダ内の構成は次の通りです。

/Backup/win/[PC名]/autobackup/バックアップファイル

backup ファイルは次のようなルールで名称が決まります。

[backup した日時]\_data\_[バックアップ元ファイルパスのハッシュ値].zip

例：

20130216064129\_data\_QzpcVXNlcnNcYS5zYXRvXFBpY3R1cmVzXIN9g2qDhYnBg4tc.zip

20130216054448\_data\_QzpcVXNlcnNcYS5zYXRvXFBpY3R1cmVzXDIwMTMwMUIlNU4NSg5ODe

IOtg1aDh4OTXA==.zip

## 8.2.バックアップファイルの復元方法

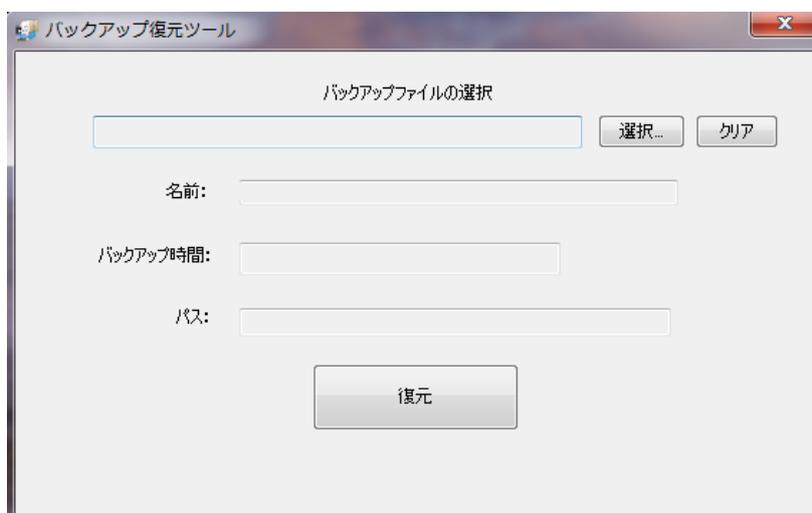
バックアップファイルはそのままでは復元先の情報等が読み取れないので、「CDLB バックアップ復元ツール」を使ってリストアします。

あらかじめ、インストーラを入手してください。

ダウンロード先のアドレスですが、以下のとおりです。

<http://datasaver.jp>

データセイバーから backup ファイルを取り出し、Windows パソコン上でリストアツールに読み込ませ「復元」ボタンを押すと、バックアップ元のフォルダを丸ごと上書きします。



### 【ご注意】バックアップファイルについて

Cloud Disk Windows Client のバックアップツール機能は、バックアップ対象であるフォルダの構成を、毎回、まるごとバックアップしています。対象としたフォルダの種類や含まれるデータ量によっては毎回バックアップデータの取得に時間がかかる可能性があります。

## 9.ファームウェアの更新が必要な場合について

設置されましたデータセイバーのファームウェアにつきましては、最新のファームウェアを実装しております。

「<http://datasaver.jp>」にてファームウェア更新のご連絡がない場合、必要はございません。

「基本設定」タブ→「アップグレード」をクリックしてください。

「アップロード」の「ファイルを選択」をクリックし、ダウンロードしたファームウェアを選択してください。

「アップグレード」ボタンを押したあと、3分後に完了致します。

その間、電源をOFFしないでください。



### ※ご注意【ハードディスク交換について】

ハードディスクを入れ替える場合、**USB 経由でハードディスク上にファームウェアを焼き込む必要があります。**お客様のお手元でハードディスク交換をしていただいても、新規に接続したハードディスクにはファームウェアが保存されていないため、データセイバーは動作しません。ハードディスク交換が必要になった際には、ご購入元へご連絡ください。